

平成28年3月7日

第2回 新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会会議録(案)

(事務局より、【資料1】【資料2】に基づき、【資料3】の内容を説明実施)

- 丸山委員長 ご意見ご質問等がある方はお願いします。
- 佐伯委員 長寿命化推進モデルにおいて設計が抜けているのは何か理由があるのですか。
- 事務局 意図して抜いてはいません。日常の維持管理と点検をセットにしたという事で考えています。
- 佐伯委員 工事と設計のセットや複数年契約は、大変結構な事だと思いますが、想定しないような欠陥が見つかって何か新しい対応が生じた場合、会社によっては得手不得手があるとか、あるいは特殊な方法が必要だったりした場合、その対応はどうやって行くつもりですか。
- 事務局 一般的なものを想定しておりまして、そういった特殊なケースの場合、多分、対応しきれないと考えています。
- 佐伯委員 あまり硬直化させないで、臨機応変に対応できる仕組みを作るべきです。
- 事務局 参考にします。ありがとうございます。
- 丸山委員長 社会実験はとにかくやってみることに意義があります。やってみて初めてどこに問題があるかわかります。
- 長井委員 非常に良い取り組みであると考えています。一方、どうやって検証を行って広げていくのか具体的アイデアを教えていただきたいのですが。
- 事務局 非常に難しくまだ、定量的に決められていません。是非、先生方にご教示をお願いしていただきたいと思います。
- 長井委員 例えば桁端での水洗い効果の検証などは、非常に難しいものです。例えば過去のデータで避けられたはずの劣化事例の補修費などから検証できると考えています。そのあたりを今後議論して、いい方向に向かっていければと期待しています。
- 事務局 過去の維持管理したものを掘り起こして検討してみます。

田中委員	<p>検討経緯・過程の整理をして、是非それをオープンにして外に発信してもらいたいと思います。そうすれば、他の自治体が同じような管理をする時に参考になると考えています。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。その様に実施していこうと思います。</p>
近藤委員	<p>私はこのモデル事業の中で一番期待しているのが、一番下にある小規模橋梁の点検モデルです。5m未満の橋梁が2,300橋で全体の56%を占めています。これを何とかうまくやって、2,300橋の手当てがつけられれば、重点的に管理していかなければいけない橋梁が減るので是非うまくやるべきです。</p>
藤田委員	<p>社会実験は建設業界にとっては一種のボランティアに近いものと思います。是非、無理のないようにお願いしたい。</p> <p>工事閑散期の有効活用という話でしたが、新潟という地域特有の事情である12月から翌年の3月は極めて工事がうまくいかないことを考慮して発注時期や工期の設定を行ってもらえればと思っています。</p> <p>事前に水洗いの重要性はよく認識しています。ただし、それを事前に証明するのは非常に難しいです。事前の対策の有効性をうまく説明できる資料があるといいと考えています。</p>
栗山委員	<p>社会実験を行う場合、一般の人達が橋の補修をするというイメージが、今まであまり経験がありません。その場合、一般の人に橋の補修の意義をキチンと伝えるようにする必要があります。それにより橋の老朽化の問題が身近になり問題提起にもなります。</p> <p>具体的に周りに学校があるのであれば、どこかの資料の中で、「今近くのこの橋は社会実験的にここを直す」「これは非常に高度な技術がいる」と言って興味をそそる様な内容を出向いて説明することがいいことだと思います。</p>
丸山委員長	<p>そういう工夫をできる範囲で積極的に行うべきです。</p>
佐藤（洋）委員	<p>私は新潟県が主体となって行った活動に参加した経験があります。整備部の方が高校生、中学生に道路の良さを伝えるという授業をしておられて、建コンと、建設業者と県が協力して行ってきました。新潟市の方でも是非そういう取り組みをしていただきたいです。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
丸山委員長	<p>新潟市においては予算や人員の制約があり単独では大変ですが、この委員の方々に協力していただいて結果としていいものを作っていければいいと思いま</p>

す。

長井委員

健全度審査会議を新設しますが具体的にはどのようなものですか。

事務局

現在検討中ですが、ある程度イメージは固まっています。具体的には健全度が低い橋梁や緊急に対応しなければならない橋梁の判定などです。構成員は発注者、有識者などを考えています。さらにこれを通じて大学との連携強化や職員のレベルアップを図っていければと考えています。

長井委員

今はそのような橋梁が上がってこないのですか。

事務局

今はそのようなシステム自体はありません。担当者レベルで判断しています。

長井委員

健全度判定だけではなく緊急対応が必要なものまで自動的に上がってくるシステムにするべきです。

また、技術者育成ですが、財政上の制約があるのは承知していますが、財政圧縮だけではなく技術者育成にも予算をかけるべきです。今後、どのように技術力を向上させていくのですか。

事務局

先程の健全度審査会議や橋梁ワーキング勉強会、講習会などを考えています。

丸山委員長

インフラの投資が減っていく中である日突然、しまったということが来るのではないかと心配しています。人材育成も同じことであり市民の方に理解していただきながら力を入れてほしいものです。

近藤委員

先程の小規模橋梁の話の件ですが、私見としてはその取り組み方法は落橋と第三者被害にのみに留意することでよいと考えます。具体的にどう考えているのですか？

事務局

基本的な考え方は近藤委員と同じです。

近藤委員

我々コンサルの立場としては、どの橋をどのレベルまで補修すればよいのかがいつも議論になります。点検結果がばらつくため、健全度審査会議の設置が計画されていますが、補修のレベル、何かそういうものをうまくコントロールできるようなものがあつた方がいいと考えています。

新潟は冬が長くて天候も良くない中でコンクリートの補修や鋼橋の塗装が行われています。気温が5℃を下回ると施工ができない材料もあるはずですが施工は行われています。コンサルからの設計提案もありますが、新潟市全体としてそのような時期でも使用可能な工法など新潟市独特の補修材料、補修レベルの決め方という会議があつてもいいと考えます。それにより事後保全脱却モデルにおい

て何をどこまでやらなければならないという皆が悩んでいる所に対するものさしになるのではないかと考えています。

事務局 補修設計において、その様な決められない事例はあるのですか。

近藤委員 よくあります。出先の事務所では決められず、本庁での判断を待つことがあります。補修の考え方がバラバラになっていることがあるのではないかと考えています。

事務局 貴重な意見ありがとうございました。
維持管理計画レベルにつきましては維持管理シナリオに基づき行っていますが、技術的なレベルに関しては今の意見を参考にさせていただきます。

丸山委員長 施工時期は悪い時期ではなくいい時期にやった方が、投資効果は高まります。ただ、悪い時期にやらざるを得ない場合には、最新の技術情報を常に取り入れる工夫が必要です。

中村委員 住民の気持ちを高め、多くの人に理解してもらうのが重要です。

丸山委員長 ありがとうございました。
今、土木業界においては担い手育成が最も重要であり、一朝一夕では無理であるため、あらゆる機会を見つけてアピールすることが必要です。そういう点から、是非、積極的に住民の方々に説明・意見の交換をしていただきたいものです。

藤田委員 新潟の地域特性を考慮した発注時期が非常に重要です。また、地元の理解・協力を得ていくことが重要です。

事務局 国から工事の平準化や施工時期の見直しの指導が来ています。事業経費の繰り越しに関しても理解が得られているため、今後は、柔軟に対応していきます。
新潟市は安心安全を標榜しています。財政圧縮ばかりではなく知恵を絞って効率的な維持管理を行い、確実に実行してその検証を行って、公表することで市民の理解を得てステップアップしていこうと考えています。建設業を3Kではなくピカピカなものに変えていきたいものです。

丸山委員長 やってみることに継続していくことが重要です。
維持管理の知見でこの構造物が何年もつなんて誰も言えません。
点検結果のバラつきや技術レベルがないことと予算がないことによって通り一遍になっている感じがします。技術レベルが高いと思われる鉄道分野でも同じ状況です。試行錯誤しながら技術力を高めていくしかありません。土木学会が関係している事業の中でも新潟市の取り組みが最も先進的なものです。3年、5

年、10年続けてうまく軌道に乗せて、継続することが一番大事です。

佐伯委員 職員の方の体制はどのように考えているのですか。今までの役割分担に従って制度を作るのか、それとも制度にあわせて組織を変えていくのですか。

事務局 今、本庁と東西土木事務所、8区に建設事務所があります。15m未満の小規模は各区の方で直接点検を管理しています。そして大規模の方は土木部の東西土木事務所でやっています。これを大きい区役所、小さい市役所と言っています。要するに市民、区民の方が直接すぐに話ができるという事で、区役所に話が通ずる、終わるといふことで、今のところ、それを基本にしていくという事で、できればそういう風にモデル的にやっていきたいと考えています。ただし、当然将来的にそれに固執するという事ではないので、そういう組織、改善が必要であれば検討していきたいと思ひます。

佐伯委員 できれば技術者の異動を少なくし、技術の引継ぎをうまくやっていける様に考えていただきたいと思ひます。

事務局 新潟市の場合、最初の10年間は基本的には、3箇所異動して窓口とか専門的な所を経験し、その後、それぞれ自分の希望する所に進んでいきます。ある程度、継続できる形にしています。

丸山委員長 これまで、維持管理課というのはあまり人気がなくその技術者に対する評価も低く、技術者を育てるシステムもありませんでした。

中村委員 ノウハウ伝達を行っていけるような場を作っていく必要があると感じています。

丸山委員長 体系的な教育システムの構築が必要です。

栗山委員 橋について全く分からない女性でも橋について情報が得られるような場を是非設けていただきたいです。

井林委員 スマートフォンを利用して橋の重要な情報を寄せるとポイントが付くなどのものも楽しいと考えています。

丸山委員長 橋も常に見守られているものは落ちません。そういうことは重要です。

岡田委員 樹木医のように橋の維持管理の話をお子達がお興味を持つような形で話してもらえば、お子達にも興味を持ってもらうことができると考えています。

佐藤（恵） 委員	維持管理に関して様々な課題はあるかと思いますが、社会実験を通していい方向に持っていったらいいと思います。
丸山委員長	女性の橋梁技術者の目を通じて提案していただき、新潟市の方でそれを少しでも実現できれば違った意味でいい方向に向かうと思います。
佐藤（洋） 委員	建設業界は古い体質で女性技術者の地位は今でも低いです。また、土木業界自体に対する一般の方の見る目も厳しいものがあります。そのため、女性の提案が少しでも取り上げられれば一般の方の見る目も変わると感じています。 ちょっと話が戻りますが、モデル化が来年度の12月から始まりますが平成28年度は従来の形と考えればいいですか。
事務局	そのとおりです。モデルにつきましては、次の第3回検討委員会で議論していただく予定です。
佐藤（洋） 委員	モデルは具体的に何橋くらい考えていますか。
事務局	具体的な数はまだ議論中であり決まっていません。
丸山委員長	予算等の制約があるかとは思いますが、とにかく早めに参加して早めにやった方がいいです。
長井委員	水洗いの対象橋梁は永久橋シナリオの長大橋を対象にしていますが、これらの橋梁の維持管理はしっかりしているため、もっと短い橋を対象にした方がいいのではないかと思います。私も見ていると結構短い20m位の短い橋とかが土砂詰まりを起こしています。何処から来たのかよくわからない土砂があって、ぐずぐずになって、ずっと湿っているという状況なので、そちらの方に手をかけると効果的ではないかと思っています。ただし、対象橋梁数が膨大なため、難しいと思うので逐次、取り組んでいただけたらと思います。 水道（みずみち）の処理も非常に有効です。水処理関係も今後、検討していただきたいです。
事務局	貴重な意見をありがとうございました。橋長の短い橋梁にも有効と思われます。今後、社会実験の取組を検討してみたいと思います。
長井委員	効果の検証上有効なため、是非取り組んでもらいたいです。
丸山委員長	実施項目はやりながらでも可能です。最初から大風呂敷を敷くと大変です。小さなことからでも、とにかくやってみることが重要です。

近藤委員 当社では点検を専門でやっている人間は1,000橋くらいのデータが頭に入っています。小規模橋梁の点検モデルで同じような所を点検するようなことをするとかなりのものがデータベースとしては頭の中に入っていくのではないかと思います。

丸山委員長 技術力アップと継承というのは、口では簡単に言えますけど大変なことです。是非それを検討していただきたいと思います。

他に何か意見ありますか。

それでは、意見がないようですので、維持管理方針（案）は了承していただいたと考えます。今後、平成28年度、平成29年度と計画に従って具体的な検討ができると思います。

事務局 大変貴重なご意見ありがとうございました。

本日皆様からいただきました意見につきましては今後作業していく中で活用させていただきたいと思います。それでは以上をもちまして第2回新潟市橋梁維持アセットマネジメント検討委員会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

以上